

# 島根・トップコーチ

(第95号)平成23年4月20日

【発行】 財団法人 島根県体育協会  
【担当課】 競技スポーツ課  
〒690-0015  
島根県松江市上乃木10丁目4番2号  
島根県立水泳プール内  
TEL 0852(60)5052  
<http://www.shimane-sports.or.jp>

## 【第95号発刊にあたって】

第95号は、昭和55年度全国高校総体・サッカー競技で3位の栄光に輝いた、**松江南高校監督・土屋 淳 氏**にご登場いただきました。

この快挙は当時の新聞で大きく取り上げられ、くにびき国体を2年後にひかえた選手や指導者に大きな希望と勇気を与えました。土屋氏には当時を振り返っていただき、入賞にいたる道程や指導観について語っていただきました。

## 【プロフィール】

昭和47年 松江南高校卒業  
昭和51年 島根大学教育学部特体課程卒業  
昭和51年～ 隠岐島前高校勤務(4年)  
昭和55年～ 松江南高校勤務(9年)  
平成元年～ 大社高校勤務(4年)  
平成4年～ 出雲工業高校勤務(12年)  
平成17年～ 情報科学高校勤務(4年)  
平成21年～ 松江南高校勤務

## 【主な指導実績】

### 〔松江南高校〕

昭和55年度全国高校総体3位  
・・愛媛県(4勝1敗)  
島根県高校総体優勝3回(S55年、60年、62年)  
島根県新人大会優勝(昭和59年)  
中国高校県予選優勝2回(昭和61年、62年)

### 〔大社高校〕

島根県高校総体優勝(平成3年)  
島根県高校選手権優勝2回(平成2年、3年)  
中国高校県予選優勝2回(平成元年、2年)  
島根県新人大会優勝(平成3年)

## 〔出雲工業高校〕

島根県高校総体優勝(平成6年)  
中国高校県予選優勝3回(平成5年、6年、8年)  
島根県新人大会優勝(平成6年)

## 〔その他〕

平成7年 広島国体に監督として出場  
(千葉県に惜敗)

平成12年～16年 島根県高体連サッカー部  
専門委員長

平成16年 全国高校総体(中国04総体)開催

平成17年 日本高校選抜ヨーロッパ遠征同行

『高校サッカー指導35年の歩み』

島根県立松江南高校

教諭 土屋 淳

## はじめに

作家の塩野七生さんは著書「ローマ人の物語 ユリウスカエサル」の中でイタリアの高校の教科書から次のような一節を引用しています。  
『指導者に求められる資質は次の5つである。知性、説得力、肉体上の忍耐力、自己制御の能力、持続する意思。・・・カエサルだけがこのすべてを持っていた。』

カエサルがローマ帝国の礎を築いたように、この資質をより多く持っている指導者はトップレベルの選手あるいはチームを作っているように思えます。私にこれらの資質が備わっていたならば、もっとよい成績をあげることができたと思っています。しかし資質はなくても私には

運がありました。すばらしい選手にめぐり合えることができ、多くの教え子が現在もサッカーに関わり活躍しています。一人一人との関わりは3年間しかありませんが、累積すると35年になってしまいました。この間の選手の活躍を思い出しながらインターハイ3位を中心に書き進めたいと思います。

#### 隠岐島前高校（昭和51年4月～昭和55年3月）4年間勤務

昭和51年4月新規採用教員として隠岐島前高校に赴任しました。高校にはサッカー愛好会はあったものの、本格的な活動は行われていませんでした。幸いなことに海士中学校にサッカー部があったため部員は何とか確保することができ遠征にも連れて行きました。先輩の教員の粋な計らいで、愛好会ながらその年の公式戦に初めて参加させてもらいました。県大会参加への突然の申し込みに手違いが生じ、組み合わせが決まった後追加で第1シードの大社高校と対戦させられるというほろ苦いデビュー戦でした。平成14年に廃部となってしまいましたが、離島でありながら26年間も部が存続したのはすばらしいことだと思っています。

#### 松江南高校（昭和55年4月～平成元年3月）9年間勤務

母校である松江南高校へ転勤となり、昭和55年の赴任早々4月1日から広島遠征に出かけました。遠征と中国大会地区予選を戦うことによって、個々の選手の特徴を知ることができました。中国大会県予選では、スタミナ不足という不安が的中し準決勝で益田高校に敗退するという結果でした。この敗戦を県総体に生かそうと、まずは練習時間を延長、次に練習最後に100mインターバルダッシュ20本を課しました。選手が真剣に取り組んでくれたので肉体的にも精神的にも強くなりました。技術的には、小学校1年生からシマネ少年サッカースクールへ通い、中学校でも熱心な指導を受けた選手がかなりい

て、県内ではかなり高いレベルでした。

県総体1回戦は新人戦優勝の大社高校と対戦しました。当時はシードがなく、フリー抽選であったためいきなり本命と対戦しました。一進一退の攻防の末2-0で勝つことができました。3回戦ではPK合戦の末松江工業に勝利、決勝では益田農林にかろうじて1-0で勝利し優勝することができました。

#### 全国高校総体3位入賞（昭和55年愛媛インターハイ）

島根県の激戦を勝ち抜き、勢いをそのまま持ち込んでの全国総体。3年生は補習を受けてからの練習参加で練習量は県総体前に比べてずいぶん少なくなりましたが、高いモチベーションと集中力でカバーしたように思います。

1回戦は和歌山県の海南高校と対戦しました。1点を先制されましたが2分後にDF松浦のドリブルシュートで同点に追いつき、後半には広田の得点で2-1と勝利しました。この試合でキープレイヤーであった2年生の石井が怠惰なプレーを見せたので、後半から交代させました。次の試合から見違えるように頑張ってくれたので、この交代が功を奏した結果になりました。（広田は現在船橋北高校教諭としてサッカー部の指導をしています。）

2回戦は地元の南宇和高校と対戦しました。完全なアウェーでしたが、ミナミ、ミナミという相手の声援が南高のミナミに聞こえて、却って盛り上がる結果になりました。中盤のボールを良く拾い、ショートパスからウイング攻撃（当時は3トップでした）をしかけた結果石井と広田の得点により2-1と勝利しました。

3回戦は神奈川県代表の小田原高校と対戦しました。雨の中の決戦となりましたが、前半に1点、後半に1点を取り2-0で勝利しました。

準々決勝は愛知県代表の岡崎城西高校と対戦しました。この試合も雨の中の対戦となりました。シュートを17本打たれるなど7割方試合を支配されながら、守りを厚くし逆襲にすべてをかけました。放ったシュート6本のうち3本

が決まる（CK から 1 本、FK から 1 本）という奇跡的なゴールで 3 - 2 と逆転勝利を収めました。GK 星野の神がかりなセーブ、体を張った DF の守り、また相手シュートがゴールの枠からはずれてくれるなど、ハラハラドキドキの試合でした。

翌日 1 日試合があいたので、午前中は小学校の体育館を借りて軽く練習し、午後は松山城見学と気分転換をはかりました。

準決勝は栃木県の今市高校と対戦しました。シュート数 27 本対 3 本という数字が示すように一方的なゲーム展開になりました。それでも全員がよく守り、30 分過ぎまでは 0 点に抑えるという健闘振りでした。しかし守護神 GK 星野がアキレス腱を切断し、退場した後に失点を重ね、PK で 1 点を返したものの 1 - 4 で敗退しました。

全国大会で 3 位になれた要因は、俊足でボールキープに優れた 3 人の FW、ゲームが読め運動量の豊富な 3 人の MF、統制のとれた 4 人の DF、そして冷静で勇気ある GK の 1 1 人がバランス良く揃ったことに加えて、何よりも無欲で臨んだことにあったように思います。

現在では山陰でも良い結果を残すチームが出てきましたが、当時サッカー後進県で、しかも進学校でもある南高が全国で 3 位となったことは、快挙であったと思っています。

宿舎は道後温泉の中のすばらしいホテルで何の不自由もなく過ごすことができましたが宿泊代が足りず、つけをして帰るというおまけつきでした。

小村徳男について（Wカップフランス大会日本代表）松江南高校昭和 62 年度卒業

鳥根県サッカー界で初の日本代表の日の丸をつけた小村徳男の高校入学時は瞬発力こそ秀でていたものの、他の 1 年生と変わりがなくレギュラーではありませんでした。練習試合をしても貧血気味であったため、前半は素晴らしい活躍をしても後半はガクンと落ちるという選手でした。彼は攻撃が大好きでゴールをとることに

執念を燃やしていましたが、総体後 3 年生が引退した後 DF のポジションに空きが起き起用してみると、予想を超えた働きをしてくれました。天職を得たのかその後練習が終わった後も遅くまで自主練習を重ね、いつの間にかヘディングや 1 対 1 に負けない DF になっていました。順天堂大学へ入学してからも努力を怠らずレギュラーを勝ち取り、そして横浜マリノスへ入団し活躍し、ついには日本代表にのぼりつめました。最後は地元ガイナレ鳥取で現役を終えました。引退後各地で講演をしながらサッカーの勉強を続け、現在は Jリーグで監督ができる日本サッカー協会公認 S 級コーチの資格を取得し、指導者としての道を歩み始めています。

大社高校（平成元年 4 月～平成 5 年 3 月）4 年間勤務

大社高校には 4 年間の勤務でしたが、全国高校選手権に 2 年連続出場と全国高校総体に 1 回出場することができました。体育科もあり優秀な選手が集まりやすく県内では常に優勝を争うことができました。最初の 2 年は曾田義治先生、後の 2 年は祝部寛行先生と大社高 OB の先生にサポートしていただき、のびのびと指導をすることができました。

出雲工業高校（平成 5 年 4 月～平成 17 年 3 月）12 年間勤務

平成 4 年に湯浅、岡本を擁し 2 冠を達成した西 治先生が県の保健体育課に異動になり、その代わりに赴任することになりました。12 年間の長い勤務でしたが、能力の高い生徒と豊富な練習量で常に 4 強の中へ入ることができました。全国大会には 1 回しか出ませんでしたが、卒業生の多くが県リーグ、地区リーグでサッカーを続けておりとてもうれしく思っています。

江角浩司について（出雲工業高校平成 7 年度卒業 現 J1 大宮アルディージャ GK）

J1 大宮アルディージャ GK として平成 20 年、21 年の Jリーグ全試合にフル出場しましたが、

出雲工業出身の選手がJリーグで活躍しているということがあまり認知されていないのはとても残念です。高校入学当時身長は175cmくらい、大学へ入る時は180cmくらい、そして現在は191cmあります。教育系の大学を希望していたので、大阪体育大学を紹介してもらい夏の合宿に参加しました。高い評価をもらい推薦で入学することができました。非常に努力家で一生懸命練習した結果才能が開花し、大阪体育大学の守護神として2年生から活躍し、日本学生選抜のGKにも選ばれました。大学卒業後J1の大分トリニータに入団し、その後大宮アルディージャに移籍し現在も活躍しています。

情報科学高校（平成17年4月～平成21年3月）4年間勤務

経験者がほとんどいなく指導に大変苦労しました。勝つことの難しさを感じた4年間でした。

松江南高校（平成21年4月～現在）

再び松江南高校に勤務することになりました。退職まであと3年、母校で最期を迎えられることに喜びを感じています。少しでもよい成績を残せるよう頑張っているところです。

（文中の敬称は略しました）

終わりに

私を戒めることばを2つあげて、閉じたいと思います。

「我々は学ぶことをやめたときに、教えることをやめなければならない。」

ロジェ・ルメール

（サッカー指導者/元フランス代表選手）

「20歳だろうと80歳だろうと、学ぶことをやめた者は老人である。学び続ける者は若さを持つことができる。人生で最も偉大なことは、心を若いままで保つことだ」

ヘンリー・フォード（フォード創業者）

## 今月のことば

### 人は節目で成長する

新学期を迎えて、選手も指導者も新たな希望が湧く時。上級生は新入生を迎えて、急にリーダーシップや積極性が増し、プレーの面でも精神的な面でも成長を見せる。

人が大晦日から正月を迎える時、新たな誓いを立てる。入学や新学期、新学年を迎える時もそうだ。人は人生の節目で何か新たな誓いを立てて、今までの自分から脱皮しようとする。

今、選手は自分の長所を伸ばすことや弱点の補強など意欲に燃えている。この心をキャッチして伸ばしてやるのが指導者の指導力ではないだろうか。この時を失敗すると成長のきっかけを失って、ずるずると一年が過ぎてしまう。

歳時の節目ばかりではない。一つの課題をクリアした時、苦しい強化合宿をやり終えた時、いつも劣勢に立たされていたチームに勝った時、名門チームに接戦を演じた時など、選手は自信をつかみ変身を遂げる。こんな状態のことを「一皮むけた」というけれど、これが成長だ。

私には選手の脱皮の時を感じた、忘れられないことがある。S57年の島根国体を迎える時、低身長のパレーチームのレシーブ力を強化する為に、年間県外試合600セットの目標を掲げた。当時全国制覇を何回もして、中国ブロックで君臨していた岡山S高校に年間150セットの試合を申し入れて何回か遠征を繰り返して、100セットに達した時、「ついに3分の2までできた。内容も良くなってきた。もう一息だ」そんな内容のことを話したと思う。選手は急に人が変わったようにファインプレーを続け出し、ついに勝ち越して帰れるようになった。このことが中国大会の決勝戦でS高校に勝利することにもなり、国体で優勝戦に進むことにもつながった。

人は自分が変わる節目を迎えた時、自ら脱皮して成長する。指導者はこの節目をキャッチして、どのような反応を導き出すかが大切であると思った。

この新学期は、選手が最も希望に燃え、成長できる時。指導者も選手と一緒にこの時を大切にしたいものである。

元・競技力向上統括アドバイザー  
荊尾俊